

「お世話する」の気持ちだけでは……

今朝のTVニュースで、老人ホーム等の職員の約1/3が鬱気味になっているとか。

人をお世話することが、自らの幸せに繋がると思えるようにならないと、お世話するだけの仕事との認識だけでは長続きは難しい。鬱気味になるのも、私に言わせれば、当然といえる。

お世話をしたい、お役に立ちたいという気持ちは、一時の博愛(?)精神。「人」の「為」は、「偽り」という方もいますしね(漢字の語源的には、こじつけに過ぎないよう)。

TVの事例で、老人から「自分達の世話をして、給料をもらっているのだろ!」と云われて落ち込んでいるとか。

人のお世話をすることで、自らの幸せを求めることができ、それで給与がもらえる素晴らしい仕事と思って、日々係わっていれば、「その通りです」と老人に云えばいいだけの話。どこかに、「世話してやってるのに…」という気持ちがあるから、「そんなことまで云われて……」と滅入ってしまうことになる。

こんな簡単、明快なことが、なんで確認できないのでしょうかね。

(2002年11月19日 記)